インみたか通信

51号

発行：ＮＰＯ法人障害者生活支援センター インみたか

２０２０年１１月

「地域生活支援拠点を、障がい者の暮らしの安心拠点に」

障害者生活支援センター インみたか理事長　宮城永久子

「自分が高齢になっても、今と同じ暮らしはできるのだろうか？」「もしも自分に何かあった時、障がいのある家族の生活はどうなってしまうだろう？」そんな悩みや不安を抱えている人は多いのではないだろうか。

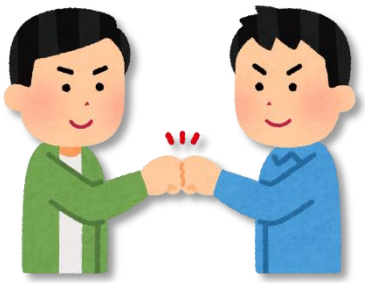
インみたか通信50号では「障がい者の地域生活支援拠点（以下、支援拠点）を知っていますか？」と題し、支援拠点についての簡単な説明を書いた。これに関する正確な知識と具体的な運用方法を知っておく必要があると考え、私たちの法人では「地域生活支援拠点にどのように参加し、またどう活用していくか」というテーマで、内部研修を行った。講師には、三鷹市障がい者支援係　星野東氏、三鷹市基幹相談支援センター　植竹佑樹氏をお迎えし、お話を伺った。

最近、よく耳にする「８０５０問題」という言葉。「80」歳代の親が「50」歳代の子どもの生活を支えるという社会現象は、今や全国的な問題となっている。「50」歳代の子どもの中には障がい者も多く含まれる。冒頭に掲げた不安や悩みを抱いている人は、障がいのある当事者やその家族だけではない。彼らを地域で支えている支援者たちもまた、彼らの将来を心配している。

確かに、一人の障がい者を一つの支援機関で限られた機能の中で、長きにわたって生活を支えていくことは難しいかもしれない。しかし、支援拠点が核となり、様々な機能を活用しながら障がい者を継続的に支援していくことができたら、これらの不安は少し解消されるかもしれない。これが支援拠点の基となる考え方。

裏のページに続く…

支援拠点は、①相談、②緊急時の受け入れ・対応、③体験の機会・場、④専門的人材の確保・養成、⑤地域の体制づくりの、５つの機能を持つ。支援拠点には、これらの５つの機能を１つの機関（場所）に集中させる「多機能拠点整備型」と、地域の複数の機関が分担してそれぞれの機能を担う「面的整備型」の２つのタイプがある。



三鷹市は、障がい者を支援する機関が多数点在しており、支援機関同士の顔の見える関係があり、連携が取りやすいため、「面的整備型」の支援拠点を目指す。

今年度の優先的な取り組みとして、上記に掲げた①相談と③体験の機会・場を充実させることとしている。

具体的には、①相談については、今すぐにでも緊急的な支援を必要とする可能性の高い世帯をモデルケースとして、どのように対応していくか「緊急時個別支援計画（仮称）」（以下、支援計画）を作成していく。対象者には、現在福祉サービスを利用している方だけでなく、未だ福祉サービスを利用していないが、将来のことに不安を感じている方も含まれている。

③体験の機会・場については、グループホームやショートステイを積極的に体験できるようにしていく。また、将来的には一人暮らしの体験ができる「宿泊体験室」の設置を検討する。

私は講師のお二人に質問してみた。「すなわち、①で作成された支援計画が、③体験の機会・場を活用しながら、シミュレーション（計画の実行）されるということか？」回答は「今はまだ、その段階ではなく、それぞれの機能を単独で果たしていく」であった。

また「私たちは、日々障がい者の地域生活を支援していく中で、もし本人に、あるいは家族に緊急の事態が起きた時、遠方の施設に入所するという選択肢しか残らないのではないかという不安と常に隣り合わせである」という思いをぶつけた。

講師から「確かに、そういった際に不本意にも遠方の障がい者施設に入所せざるを得ないケースがあった。しかし、この支援拠点の機能を充実、強化させていくことにより、一人でもそのような方を食い止めていきたい」と語気を強めた回答を得た。

そこで、皆様にお願いがあります。障がい者ご本人はもちろんのこと、身近にいらっしゃる障がい者が将来に不安を感じられていることがあれば、その声を是非聞かせてください。緊急時のことを一緒に考えてみませんか？

フリースペース紹介

ぽっぷ職員：南雲　潤

フリースペースは、毎月第４土曜日に開催しているぽっぷ開設時から続いているイベントの事です。１０月はレクリエーションで魚釣りをして楽しみ、参加者同士で自己紹介もやりました。コロナ禍での緊急事態宣言が発令されていた期間は中止にして６月から再開しました。中止していた間も「いつ再開するの？」と利用者の方から有難い言葉を掛けてもらって嬉しかったです。

そんな訳でフリースペースを再開したのですが、コロナ禍前と比べて物足り無さを感じている部分もあります。それは会場が飲食禁止のため、これまでできていた茶話会を実施出来ない事です。お菓子を食べたり、雑談や歌を歌ったりしていました。現在は会場の定員が縮小されているため二部制で開催し、一回当たりの時間も短縮しています。マスク着用や必要な消毒なども行っています。以前に比べ制約がありますがこんな時代だからこそ、遊びに来てくれた皆さんと余暇を楽しみたいと思っています。

「ぽっぷを相談先として利用したい」と思っている方にはその入り口として。「ガイドヘルパーをもっと利用したい」という方は外出先としてフリースペースを活用してもらえれば幸いです。当面は事前申し込みでの開催となりますが是非一度、遊びに来て下さい。お待ちしています。

新型コロナウィルスに伴う

クリスマス会中止のお知らせ

ぽっぷ施設長：金子　洋祐

日頃から三鷹市障がい者相談支援センターぽっぷにご協力いただきありがとうございます。

この度、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、参加者の健康と安全を考慮し、

１２月２６日（土）「クリスマス会」は中止といたしました。

楽しみにされていたイベントだと思いますが、ご理解の程、よろしくお願いいたします。

なお、１２月のフリースペースは１２月２６日（土）に開催いたします。

また皆様にお会いできる日を心よりお待ちしております。

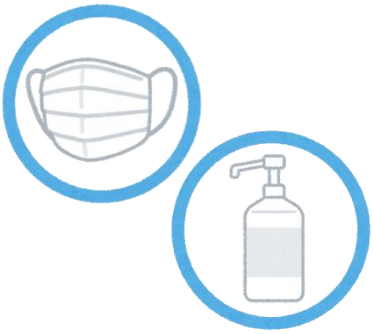
ヘルパー派遣部の日記

「7月某日　事業継続の危機を救ってくれた各自治体からの独自助成」

障害者生活支援センターインみたか理事長　宮城永久子

新型コロナウィルスが流行する中、東京都では緊急事態宣言が発出されました。それに伴い、日ごろ移動支援を利用されている方々が外出を自粛され、私たちの行う「移動支援事業」は、経営面で大きな打撃を受けました。一時は本事業の継続も危ぶまれるほどでした。

それはインみたかに限ったことではなく、地域で活動する移動支援事業者全体にとって、非常に深刻な事態であったことは言うまでもありません。



三鷹市及び武蔵野市ではそのような状況を理解し、速やかに事業者への独自の支援策を打ち出して頂きました。不足する衛生用品（マスクや消毒液等）の給付や助成金などは大変ありがたく、事業所の窮地を救って頂きました。

両自治体からのご支援に応えるべく、今後も引き続き本事業の運営に邁進してまいります。この場を持ちまして、お礼申し上げます。

「7月30日、8月22日　感染症（新型コロナウイルス）対策・熱中症対策研修」

ヘルパー派遣部所長：小林　延芳

今年度第一回目のヘルパー研修を**対面**で行いました。関係者には「え～、いまどきオンラインじゃないの～？」と冷めた目で見られながら、対面で行うことにこだわり、感染予防対策をしっかり行うことで、実施にこぎつけました。

講師は、Mcrew訪問看護ステーション・看護teamの皆さま。

隣のページに続きます…

講話から、感染症対策には「**こまめな手洗いの機会を、習慣化させること**」がなにより重要であることを学びました。学んだ内容はと～っても大切なことなのですが、それと同じだけ「**久しぶり～元気にしてた？**」、「**会えてよかった…。**」と、ヘルパーさん同士で活発な会話が交わされていて、コロナによって制限されている**“仲間同士の関わり”**が生で行われていたことに、目頭が熱くなり実施してよかった…と改めて思いました。

そしてこんなに息苦しい世界に変えてしまったコロナ、「馬鹿野郎(#゜Д゜)！！！！！！！！！」文字数の関係上、書ききれないことが多くあるのですが、研修内容や感染予防対策などなどを、詳しく聞きたい方がいましたら、遠慮なくインみたかヘルパー派遣部迄お問い合わせください。

※今後のヘルパー研修も感染予防対策を厳重した上で、**対面**にこだわり行ってまいります。

○月△日　親切な貴婦人

ヘルパー派遣部職員：滝美央

利用者Aさんと、ヘルパーBさんのある日の介助中の出来事。

ヘルパーBさんから事務所に連絡が入る。「送迎車から下車し自宅までの道中、Aさんが歩けなくなりしゃがみ込んでしまった。自宅までもう少し距離がある。タクシーを手配してもらえないか？」手配を進めていると、再度ヘルパーBさんから電話。「タクシーの手配不要です！『すぐ近くが自宅だから自分の車で送ってあげるわ。この人何度か見かけたことあるし。』と通りがかりの貴婦人が声をかけてくれて送ってもらうことになりました。」

　ソーシャルディスタンス＝「人と人との距離を保つこと」と言われているが、どこか、気持ちの距離までも離れてしまっているような寂しさを感じずにはいられない現代。久しぶりに“ほっこり”させてもらいました。

１２月より、産休に入らせていただきます。また戻って参ります。

滝より

ぽっぷくんの鼻唄

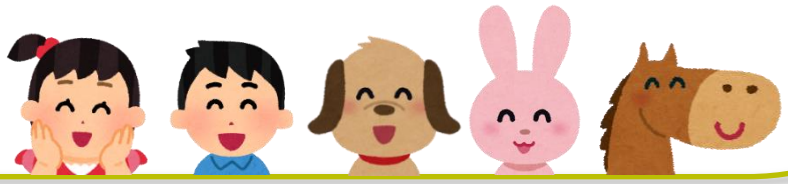
感染症の流行により「リモート」花盛りです。リモートとは、参加者同士が離れた場所にいてもパソコン等の端末を使用して、会議や飲み会に参加出来るという便利な環境の事なのですが、僕にとっては使い勝手が悪く「モヤモヤ」しているのです。

あるリモート会議に出席した時の事です。僕の家にはリモート会議をできる環境がなかったので、会場になっていた市役所に着いて、進行役の人から「発言の際には端末のＡボタンを押してから話をしてください」と言われました。でも発言しようとすると画面からボタンが消えてしまい、ボタンを探していると他の人の発言が始まってしまうのです。こんなやり取りを数回繰り返している間に会議は終わってしまいました。

今後、自宅からでリモート会議に参加する事もあるだろうと本屋で参考書を購入したのですが、僕の家にはリモート画面の背景に出来る壁もスペースも無く、物に溢れ返っている部屋が映し出されてしまうのです。

高校生の頃、登校しないで授業が受けられたらと思っていたものです。その当時は夢物語みたいな感じでしたが今や現実となりました。リモートならば会場までの移動時間も必要ないので時間を有効に使えます。天気にも左右されないし。それにガイドヘルパーが探せなかった時、会議に参加できるかもしれません。そう考えれば願ってもない「理想の時代」が到来した筈なのになぁ。

今年もいろいろお世話になり、ありがとうございました。
また来年、皆さまにとってたくさんの笑顔あふれる一年になりますように。



三鷹市障がい者相談支援センター　ぽっぷ

〒181-0013　三鷹市下連雀4-15-18-2階　　電話　0422-71-0901　ファックス　0422-26-5141
メール　poppu@dream.ocn.ne.jp　　ホームページ　http://www6.ocn.ne.jp/~poppu/

障がい者計画相談センター　くも

〒181-0013　三鷹市下連雀4-15-23-Ａ102　　電話　0422-26-7229　ファックス　0422-26-7229

障害者生活支援センター　インみたか　ヘルパー派遣部

〒181-0013　三鷹市下連雀4-15-23-Ａ102　　電話　0422-71-0902　ファックス　0422-24-6266
メール in-mitaka@iaa.itkeeper. ne.jp　　ホームページ　http://www6.ocn.ne.jp/~poppu/inmitaka/index.html

皆様からの
ご意見・ご感想が
私たちの励みに
なります。
ぜひきかせて下さい。
お待ちしています。